

鎌倉市川喜多映画記念館 令和7年度第2四半期実績評価

1 利用の承認等に関する業務(第1号)

(1)来館者の動向について

- ・この四半期の来館者数は3,796人で、前年度の同四半期来館者数3,791人に対して、5人、約0.1%の増となった。
- ・月別来館者数:1,295人(7月)、1,420人(8月)、1,081人(9月)

2 施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務(第2号)

(1)施設・設備の維持管理について

- ・通常の設備保守・点検等が適切に実施されている。

(2)資料等の維持管理について

- ・施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務(第3号)

(1)上映および展示事業について

- ・展示事業は、第1四半期に引き続き、7月30日まで通常展「映画雑誌SCREENの流儀 近代映画社の仕事」を開催した。8月2日から始まった通常展「開館15周年記念 鎌倉・川喜多邸を訪れた映画人」では、記念館開館15周年を記念し、映画を通して国際交流に尽力した川喜多夫妻の貢献を振り返るとともに、鎌倉を訪れた国内外の映画人をポスターや写真資料で紹介した。会期中の隔週土曜日には、旧和辻邸(旧川喜多邸別邸)解説付き見学会を実施し、旧和辻邸の活用を図るとともに、川喜多夫妻の業績を市民等へ広く伝え、理解を深める機会となっている。
- ・上映事業では、企画展と関連した作品の上映に加えて、「監督 篠田正浩－闇の中の祝祭人」や「ジャパニーズ・ゴースト・ストーリーズ」をテーマとした上映を行った。また、鎌倉市平和推進事業／優秀映画鑑賞推進事業として実施した「戦後80年祈念 鎌倉へいわ映画祭」では、終戦直後に製作された日本映画の名作を上映し、各回平均46.1人という観覧者数の多さやアンケート結果等からも好評であったことが見受けられた。
- ・月に1回以上、映画上映と合わせたトークイベントを開催し、観覧者の作品に対する理解を深める機会を提供している。特別上映は、満席となることも多く、記念館の付加価値を高める人気事業となっていることから、引き続き魅力的な事業展開に努め、新規の集客や記念館の認知度向上につなげてほしい。

(2)調査、研究及び情報提供について

- ・次期展示の調査研究のため資料・文献調査等を行っているほか、企画展開催中に一部展示替えを行い、リピーターも異なる視点から展示内容を楽しめるよう情報提供を行っている。

(3)広報及び宣伝等について、

- ・市広報に企画展示や上映作品等の情報を掲載しており、さらに、市役所本庁舎内のモニターによる広告も利用し、より多くの市民等に向けて利用促進の情報発信を行った。

(4)その他の事業

- ・小学生から中学生とその保護者を対象とした夏休みの映画館「北極のムーシカミーシカ」やぐるぐるアニメワークショップを開催し、若年層が映画と身近に親しむ機会を提供した。
- ・キュレーターによる上映解説やギャラリートークを随時実施している。

4 その他市長が定める業務等(第4号)

(1)事務処理

・例月の指定管理業務報告書を決められた期日までに提出した。

(2)事故・苦情対応

・事故や苦情等があった際は、内部で情報共有を行い、速やかに市へ報告するとともに対応策を検討している。

・6月28日に発生した市内断水による臨時休館に伴う振替上映や9月5日の台風の影響による臨時休館等、災害時の来館者の安全確保及び中止となった事業の適切な振替実施に努めている。

(3)その他

・近隣の文化施設4館とミュージアムめぐりスタンプラリーを実施しているほか、鎌倉文化ネットワーク(鎌文ネット)に参加するなど、市内文化施設との連携強化及び情報共有に努めている。

・映画の教育的利活用を促進するため、「子どものためのミュージアム活用」イベントや教員研修会等において記念館の周知を図っている。

5 全体評価

・この四半期の来館者数は3,796人で、前年度の同四半期来館者数3,791人に対して、5人、約0.1%の増とほぼ同程度の実績となった。例年以上の猛暑や台風等の天候不順が影響したほか、会期中盤となる9月の展示事業において来館者数がやや伸び悩む結果となった。一方で、上映事業においては、「パピヨン」「小さな恋のメロディ」等の人気作品の上映や多様な観点から企画している特集上映が幅広い世代の関心を得ており、前年度同期比約108%と来館者数の増加につながっている。リピーターの獲得に向けた企画展開催中の一部展示替えなど、工夫を凝らした事業展開を評価するとともに、引き続き記念館ならではの魅力ある映画体験の提供に努めてほしい。

・8月から始まった通常展「開館15周年記念 鎌倉・川喜多邸を訪れた映画人」は川喜多夫妻の業績とつながりの深い映画人を紹介しており、上映事業においては、アラン・ドロン出演作から田中絹代、鎌倉文士原作作品まで、これまでの人気作をそろえた貴重なラインナップとなっている。また、映画関係者によるトークイベントや夏休みの子ども向け上映事業などは、鑑賞にとどまらない作品への理解を深め、映画に慣れ親しむ機会として定着しつつあることから、引き続き積極的な広報・周知に努め、市民等へ記念館の魅力を発信してもらいたい。

・8月に市との連携事業として開催した「戦後80年祈念 鎌倉へいわ映画祭」では、上映作品の選定やトークゲストの調整、上映素材の手配等において記念館の有するノウハウを活かし、円滑な事業の実施に貢献した。4日間の会期で計369名が参加し、「終戦の日」に実施したアフタートークでは、上映作品「戦争と平和」の時代背景等に関してゲストから丁寧な解説がなされ、多くの好評の声があったことから、市民等の平和意識の醸成につながる事業となったことを評価したい。

・施設の維持管理業務に関しては、日常点検をはじめ、各種定期点検を計画的に実施している。市への報告も徹底されており、適切な対応が取れている。

※評価の項目は条例第4条第1項の各号に準じる。

鎌倉市川喜多映画記念館 令和7年度第2四半期判定評価

評価の視点	評価判定項目		評価結果	減点
利用の承認等に関する業務(第1号)	利用者対応	利用料金を適切に徴収し、帳簿を作成している。	○	
施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務(第2号)	管理	設備の保守や清掃等を行い、施設を適切に管理している。	○	
	点検	定められた点検について適切に実施している。	○	
	修繕	不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施している。	○	
	資料等管理	常設展示品について適切に管理している。	○	
記念館の事業の企画及び実施に関する業務(第3号)	展示	計画どおりに展覧会を開催している。	○	
	上映	計画どおりに上映を実施している。	○	
	市民参加	市民等が参加して企画する事業を実施している。	○	
	展示及び上映以外の事業	記念館の設置目的を達成するために必要な業務(教育普及活動など)を行っている。	○	
	調査研究	計画どおりに調査及び研究を行い、その成果を公開している。	○	
	周知活動	記念館及び展覧会の周知を積極的に実施している。	○	
	業務内容向上	来館者のニーズを把握し、反映に努めている。	○	
その他市長が定める業務等(第4号)	事務処理	市に対し、定められた期日までに報告書を提出している。	○	
	報告	市との連絡調整を適切に行い、協議を行った事項については確実に実施している。	○	
	トラブル対応	来館者や近隣との間にトラブルが生じた場合、適正な対処をすると同時に、市への報告が適切に行われている。	○	
	危機管理体制	事故、災害時の緊急時の連絡体制整備、対応措置、市への報告が適切に行われている。	○	
	人員体制	事業計画書等に即した適正な人員及び資格者を配置し、人員に対して研修等自己啓発の努力がなされている。	○	
	経理事務	固有の口座を保有し、適正な会計処理を行い、光熱水費等を滞納していない。	○	
	個人情報保護	個人情報の漏えい、滅失等の事故防止対策を講じている。	○	
	法令等遵守	法令・条例等に基づき必要な点検・報告等を行っており、業務上知り得た情報を第三者に漏洩していない。	○	
※評価の視点は条例第4条第1項の各号に準じる。				0

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・× ※×1つにつき5点とする。

特記事項

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
20～25	10%
30～	20%